

●残存機能や潜在能力を見つけ、やる気を促す作業療法士

こんにちは。表題に掲げる「ウェルビーイング」という言葉が新聞やテレビなどで目に留まるようになりましたが、まだまだ私たちの暮らしている社会はウェルビーイングからは遠い、と思います。今日は、作業療法士はどんな捉え方をしてウェルビーイング活動おこなを行っているのかを知っていただければと思います。

まず、ウェルビーイングの定義を見ましょう。世界保健機構（WHO）は、健康の定義を「病気や虚弱の有無ではなく、身体・精神・社会的にも満たされた状態（well-being）である」と説明しています。この定義が生まれたのは戦後です。第二次世界大戦で荒廃した世界は、大戦の教訓から人々が健康的で生き生きと過ごせることが大切だとの考え方を生みしました。70年以上も前から既にウェルビーイングの考え方は始まっていたのです。

作業療法士のことは皆さんご存知でしょうか。作業療法「Occupational Therapy（オキュペーショナル・セラピー）」は、心と身体からだのリハビリテーションです。戦後に日本にもリハビリの考え方が入ってきて、その際の訳語が「作業療法」と表現され、今も使われています。Occupational という言葉には、専念する、働くといった意味があります。日本作業療法士協会の定義では「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と説明しています。

Rehabilitation（リハビリテーション）は、ラテン語由来です。再び、ふさわしい、状態・

講演

ウェルビーイングを促す ～作業療法士の視点

佛教大学保健医療技術学部作業療法学科 教授 赤松智子

2023年9月9日に開かれた「おとぎ文化講座」の要旨を採録しました。



赤松智子（あかまつ ともこ）

1963（昭和38）年、京都市生まれ。京都大学医療技術短期大学部卒業後、作業療法士としてリハビリテーションに従事し、1996（平成8）年から京都大学医学部人間健康科学科講師として教育・臨床、地域に関わる。2006（平成18）年から佛教大学保健医療技術学部作業療法学科教授。保健学博士。専門は、神経筋疾患のリハビリテーション、神経心理学、福祉工学。京都の名所・旧跡訪問による心身の健康促進について研究し、バリアフリー状況が把握できる地図を『ウェルビーイング活動・京都』のホームページで公開している。